放課後等デイサービス かりん スタートしました！

今年の 4 月より開所した「障害児・者総合サポートセンターみつばち（以下、みつばち）」にて、放課後等デイサービスが始まっています。愛称は「かりん」と言い、音のかわいらしい響きと、子どもたちにとって実りある時間にしてほしいとの思いを込めてつけました。近隣の関係機関や、行政の方々なども見学に見えるなど、関心を寄せてくださっています。

スタッフは、児童発達・児童精神の知識と経験のある臨床心理士や応用行動分析を専門とする臨床心理士の他、児童指導員や看護師など、多職種の専門家がお子さんに対応しています。現在、利用登録者は７名です。

★子どもたちは「かりん」に来てまず一息ついたら、学校の宿題やお勉強です。まだ利用者が少ないということもあり、マンツーマンで学習支援を行っています。そこで使用する教材も、スタッフが手作りし、子どもたちが少しでも楽しく意欲的に取り組めるようにと工夫しています。

★そのあとはお楽しみの「おやつタイム」です。スナック菓子やチョコレートも出しますが、するめや煮干しなどよく噛んで食べるもの、季節の果物も出すようにしています。手を洗う、「いただきます」をする、お友達が食べ終わるまで待っている、自分のお皿やコップは自分でシンクに運ぶなど、マナーの練習をするよい機会にもなっています。

★遊びの時間は、おもちゃで遊んだり、ゲームをしたり、工作をしたりしています。手先の不器用な子は、興味のあるものをハサミで切る遊びや、碁石拾いなど、楽しみながら練習できるように働きかけています。おもちゃの貸し借りでは、「貸して」ということ、「いや」ということなど、子ども同士のかかわりの中でスタッフがさりげなく介入し、声をかけています。現代の子どもたちにとっては、手作りの釣りゲームやシャボン玉、とんとん相撲など、昔ながらの遊びは新鮮なのか、好んでよく遊んでいます。

「かりん」が始動して、まだ 4 か月足らずですが、継続した支援のもと、子どもたちの成長を感じることができます。成長の気づきや頑張りは、保護者の方との「連絡ノート」に毎日記載し、ともに子供の成長を見守らせていただいています。

これからも、子どもたちの成長に寄り添いながら、より良い支援の方法をスタッフで話し合い、安心して利用していただける「かりん」の運営に努めたいと思っています。

障害児･者総合サポートセンターみつばち

●児童発達支援サービス（2 歳～就学前）**あんず**

9 月より開始予定

平日　　時間　9：00～13：00

●放課後等デイサービス（小学生）**かりん**

平日　　時間 14：00～18：00

土曜日　　時間　9：00～18：00

●保育所等訪問支援（就学前・就学後）

9 月より開始予定

平日　　時間　9：00～15：00

＊利用料：費用の 1 割負担

（児童福祉法に基づく児童発達支援給付費適用）

お問い合わせ先・・・みつばち　（055-943-7646）

不登校・ひきこもり支援事業講演会
３月 27 日（木）
於：ふじのくに東部 NPO 活動センター

静岡大学大学院人文科学研究科教授の江口昌克先生をお招きして第 2 回目の不登校・ひきこもり支援講演会を開催しました。今回は、『不登校／問題行動の背景―教員・スクールカウンセラーに期待することー』と題して、スクールカウンセラーや学校の相談担当の教員など支援職の方々を対象にしたお話でした。年度末であり夜の短い時間帯でしたが、会員以外にも多くの方が参加されました。

システムズアプローチと言うあまり聞きなれない方法論についてですが、実際の例を挙げながらわかりやすい内容でした。

第 60 回関東甲信越静里親研究協議会
静岡大会への協力
７月６日（土）
於：プラーサ・ヴェルデ
伊豆三津シーパラダイス

沼津に新しくできたプラーサ・ヴェルデにて、里親対象の大会および、講演会が行われました。その間、子どもたちを預かる事業に Be サポートも協力させて頂きました。行先は伊豆三津シーパラダイスです。

初めはみんな緊張している様子もありましたが、すぐにお友達もでき元気にバスに乗り込んで出発しました。シーパラダイスでは、イルカのショー、アザラシのショーが大人気で立ちあがって見ている子もいました。水族館内では、クラゲの万華鏡、サメなどいろいろな魚に目を丸くして見ていたのが印象的です。お昼はカツカレーを水族館のレストランで黙々と食べている子やお友達と楽しくおしゃべりしながら食べている子もいました。昼食後はイルカ・アザラシのショーを見る子もいれば実際にお魚が泳いでいる水遊び場で魚を捕まえるなど元気に過ごしていました。

子どもたちは会場に戻ってからもまだまだ遊び足りない様子で、里親さんを待っている間も走り回るなど、一日を通して元気いっぱいに過ごしていました。

会員の皆さまのご協力も頂き、ありがとうございました。

静岡県在住の
東日本大震災　被災者支援活動
「OHANA」（オハナ）

初夏のバス旅行　（６月８日）

雨続きの天候のなか、６月８日旅行当日は真夏のようになり、晴れ渡りました。OHANA のみんなの日頃の行いの良さでしょうね。早朝には富士山の美しい姿も眺めることができました。

今回は伊豆パノラマパークと伊豆三津シーパラダイスを訪れるバス旅行でした。９家族 31 名の参加があり、そのうち２家族が初めての参加でした。新しい OHANA の仲間が増えたことをとても嬉しく感じました。

パノラマパークでは山頂の足湯やアスレチック、駿河湾と富士山を望む眺望が見所です。16 人の子どもたちはアスレチックで大はしゃぎ！ちょっとドキドキしちゃうような綱渡りや壁登りも勇敢に挑戦しました。昼食はバイキングでしたが、いっぱい遊んでお腹を空かせたこともあり、普段は小食な子もたくさん食べ、お腹を大きく膨らませて笑っていました。

シーパラダイスではイルカや海の生き物たちとの楽しい出会いがありました。ただ見るだけでなく、ペンギンの卵の秘密を飼育員さんに教えてもらったり、イルカや魚にエサをあげてみたりと、新しい体験がたくさんできました。

OHANA がスタートして３年が経ちました。静岡の生活に馴染んでいく方、新しく転入される方、これから転出していく方など、それぞれの家族の形があります。ですが、いつ、どこにいても OHANA の仲間であることは変わりません。OHANA の輪がこれからも広がっていき、みんなの居場所となってくれることを願っています。

東日本大震災から３年以上経過し、被災地から離れた静岡県内では震災の記憶も薄れがちです。支援団体の多くも活動を終了しました。しかし、今もなお県内の避難者の数は 1,000 人を超しています。Be サポートでは、そうした避難者の方々の支援活動「OHANA」を 2011 年７月より支援活動を継続して行っています。

この活動が認められ、今年６月初めて静岡県の「避難者支援県・市町担当者会議」に招かれました。これまでの活動報告とともに、被災避難者の抱える困難について、臨床心理士の視点から市町の担当者の方々にお話しし、行政の理解と協力をお願いしてきました。

復興も遅々として進まず、先の見えない中で避難者の方は、年月が経てば経つほど周囲の人に話せない、複雑な思いや不安を抱えて生活しています。Be サポートでは、そうした避難者の方々が少しでも安心して過ごすことができるよう、これからも支援活動を続けていきたいと思っております。皆さまの暖かなご寄附や活動へのご協力を頂けましたら幸いです。